

花の国づくり滋賀県協議会（滋賀県）

協議会構成団体： 滋賀県・滋賀県花き園芸協会・滋賀県生花商協会・日本ワ
ーテガ イー協会滋賀県支部（NFD）・(株)なにわ花いちば・京都生花(株)

戦略品目

切り花：きく、ばら

< 取組内容 >

1 生産供給体制の強化

- ・ 国産きくシェア拡大に向け、有望洋マム品種を試作し品種特性や加工適性を把握する。また、洋マム類の需要実態を把握し、洋マムの推進品種を選定する。

- ・ 複数品種を試作し、各品種特性を把握するとともに、流通・消費の現場での品質・嗜好調査を行うことで、今後県内で推進していく品種として、11月上旬咲きの作型にはセイオペラ、セイマーレッタ、セイブルノ、セイスピースの4品種、8月末から9月初頭咲きの作型にはセイアクイラの1品種、12月咲きの作型にはサフィーナ、セイマーレッタ、セイノーマンサニーの3品種を選定した。



セイマーレッタ

3 需要の拡大

- ・ 生産者自らが本県の主要な販売先である首都圏の情報発信拠点である「ここ滋賀」で香りや色、花形など特特別のばらを展示し、消費者調査を実施することにより、消費者に好まれる品種の特性を調査する。
- ・ 本県ばらの主な出荷先である東京の市場に対し、香りや色、花型など、どのような品種特性を持ったばらがあるか有利販売できるのか需要動向調査を行う。

- ・ 消費者調査および需要動向調査の結果をまとめ、有利販売、新たな需要の創出のための品種選択マニュアルを作成した。
- ・ 実需者のニーズに合った特性を持った品種を生産することにより、新たな販売先として、小売店を一店確保した。



ここ滋賀での消費者調査

< 今後の取組予定 >

- ・ 今回選定した洋マムを用い、需要者・消費者ニーズに応じた栽培体系を確立する。
- ・ 今後も実需者ニーズに合ったばら品種の生産を推進し、新たな販路拡大につなげる。

京都府花き振興ネットワーク

協議会構成団体： 京都府花き生産組合連合会、京都生花株式会社、株式会社大原総合花き市場、京都府花商協同組合、京都府園芸商組合、京都府農業協同組合中央会、京都市、京都府

戦略品目

花壇苗：ペゴニア、マリーゴールド、ナデシコ、パンジー
切り花：バラ、千日紅、ひまわり、檜扇、ひめゆり、
花しょうぶ、らっぱ水仙、萱草、かわらなでしこ
切り枝：桃、梅、ユーカリ、ミモザ

< 取組内容 >

1 生産供給体制の強化

- ・ 華道家のニーズに応じたいけばな用花材の生産可能性を調査。
- ・ 新たな花きの活用方法として、ドライフラワーの生産方法を検証。
- ・ 切り枝花材の開花調整技術を確立し、新たな栽培品目として、ミモザ、ユーカリの導入試験を実施。
- ・ 花壇苗専門店やデザイナーが求める花付きの良い花壇苗の生産に向けた実証。

3 需要の拡大

- ・ 児童及びその保護者を対象に、戦略品目の花きを用いた花育を行い、若年層の新規需要の創出を目指す
- ・ 戦略品目の展示を通じて、花きの持つ魅力や活用方法を紹介し、消費拡大を目指す。

< 取組の成果 >

- ・ 生産実証を行ったいけばな用花材について、市場担当者や華道家から高い評価を受け、府内での生産を想定した栽培技術マニュアルを作成。
- ・ ドライフラワー生産に適した品目、品種及び花色や乾燥方法等の技術が確立し、新たな販路が1ルート増加。
- ・ 切り枝花材の開花調整技術やミモザ、ユーカリの栽培に関する知見が得られ、戦略品目の販売金額が43%増加。
- ・ 花壇苗の各品目における施肥や灌水等の栽培技術を確立。



河原撫子生産実証ほにて、市場担当者と意見交換

- ・ 合計747名の児童及びその保護者が花育体験を行い、参加者へのアンケート結果より、うち13%の家庭で花育体験後の花き購入率が高くなった。
- ・ 花き小売店に、四季に応じて地元産の花きを使う意識が芽生えたほか、新たな花きの活用方法について実需者とのマッチングが進んだ。



JR京都駅での花育活動

< 今後の取組予定 >

- ・ いけばな用花材について、新たな候補品目を含めて栽培適応性及び経済性を引き続き検証し、得られた栽培技術の普及及び生産拡大を行う。
- ・ ドライフラワーの活用方法について、ワークショップ等を通じて消費者に情報発信を行い、さらなる需販路拡大のため、実需者とのマッチングを行う。

大阪府花き振興協議会（大阪府）

協議会構成団体：大阪府花き園芸連合会・大阪府生花商業協同組合
大阪府地方卸売市場協会・日本ハンギングバスケット協会・関西花き事業協同組合・大阪府環境農林水産部農政室・大阪府流通対策室・大阪府農林水産総合研究所・大阪鶴見フラワーセンター

戦略品目

切り枝：啓翁桜

< 取組内容 >

1 生産供給体制の強化

- 産地ごとに気温データロガーを設置し、啓翁桜の休眠打破に必要な8℃900時間経過時期を判断した。
- 産地で早期に収穫した啓翁桜の枝を、卸売市場定温庫に保管し、貯蔵期間ごとの開花状況を調査した。
- 産地の気温と近隣アメダスの気温を比較し、開花可能時期の判断および貯蔵庫で低温を補う基準を示した。

- 8℃以下の時間を積算した結果、能勢町では1月10日ごろに、八尾市ではそれよりも遅い1月30日ごろに休眠打破されたと推計され、これ以後に収穫した枝はすべて開花した。
- 休眠打破されていない枝を早期に収穫して貯蔵庫で保管した枝は、合計800時間では十分に開花しなかったが、900時間では一斉に開花した。
- 産地の温度記録と近隣のアメダスデータを比較し、アメダスデータを補正することで、休眠打破時期を推定できた。



左800時間 右900時間
8℃以下の時間計測により確実に開花させることができた。

2 流通の効率化・高度化

- 気温の低い能勢、および気温の高い八尾の産地から1月15日に啓翁桜枝を輸送し、貯蔵なしおよび湿式条件で10日、20日の市場低温庫保管試験をおこなった。あわせて、鮮度保持剤の効果試験を実施した。

- 低温貯蔵しなかったまたは10日貯蔵の枝の場合、能勢産は概ね開花し、八尾産はまばらにしか開花しなかった。
- 20日貯蔵した啓翁桜は産地にかかわらず数日で開花し、低温不足解消と一定期間の保管が可能であった。今後は、需要に合わせ市場で計画的に保管・流通できる。
- 市場品質検査室を用いて啓翁桜の品質試験を公開した。鮮度保持剤を用いた場合、ややゆっくりと開花し、観賞期間が長くなることを買参人に示した。



産地別貯蔵試験の様子
産地や保管の期間により開花に差がみられた。

3 需要の拡大

- 関西国際空港入国ゲートコンコースにおいて大規模な桜の装飾を行い、入国した外国人に対し桜の美しさ・綺麗さのアピールを行う。
- 世界に対して大阪産桜を訪日観光客がSNS等に投稿することにより、世界へ向けた需要拡大の発信スポットとなる。

- 入国外国人の動向を短時間ではあるが調査したところ、立ち止まって写真を撮る姿が多数見受けられた。
- 新型コロナウィルス拡散の影響で訪日客が激減したが、制作時及びメンテナンス時も訪日外国人に声をかけられ、日本の桜には非常に興味があると実感した。
- 大阪産の桜をSNS等において世界にアピールできた。



関西国際空港展示

< 今後の取組予定 >

- 年度末の新型コロナウィルスの影響もあり十分なアピールもできなかったため引き続き本事業を継続推進していきたい。
- 2025年の大阪万博開催時までに関東地域に適した花壇苗を選定すべく検証を進めていきたい。